

1 1月26日に令和3年第4回富里市議会定例会が開会いたしました。

まずは、新型コロナウイルス感染症の本市の感染状況については、市民の皆様が日々取り組む感染対策と83%を超えたワクチン接種への御理解・御協力により、感染者は極めて少ない状況が続いており心より感謝申し上げます。

しかし、これからは年末・年始に向け人流が盛んな時期を迎えます。市民の皆様には、引き続きの感染対策を心掛けていただくようお願いいたします。

また、現在、準備を進めている「3回目接種」につきましては、12月上旬から医療従事者の皆様へ接種を開始し、その後、2回目の接種からおおむね8か月以上経過した方を対象に、接種クーポン券を随時、発送する予定で進めてまいります。

その一方で、コロナにより私たちの暮らしは一変し、経済活動の回復を見据えた新しい日常へと変化している中、気を緩めることなく、明日の富里に向けた準備をしっかりと進めていかなければなりません。

- (1) 富里の未来を見据えた今後10年間の計画的な市政経営に向け、策定作業を進める「新たな総合計画」について
「富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を重点プランに位置付

け、今後、深刻化する人口減少対策と地域活性化施策の具現化を計画に反映させるとともに、

市民一人ひとりが希望と活力をもち、自分らしく輝き暮らせる富里の未来を導くための、羅針盤となる計画を目指し策定を進めております。

また、総合計画の達成に向け、令和4年度から3年間の具体的な事業を示す政策実行計画は、SDGsの目標達成に向けた基本理念を取り込み、現在、令和4年度の予算編成と併わせ調整を進めております。

総合計画の策定にあたっては、総合計画策定本部会を中心に全庁体制による協議・調整のもと、有識者等で構成する基本構想審議会において議論を重ね、この度、「富里市総合計画・基本構想・前期基本計画（素案）」として取りまとめました。

今後は、更に議論を深め、令和4年3月の策定に向け取り組んでまいります。

（2）充実した生活移動手段の確保のため、地域にあった交通体系の構築を目指す、地域公共交通について

富里市地域公共交通計画を策定する上で基礎資料となる、公共交通に関するアンケート調査を実施しました。

アンケートでは、無作為な抽出方法をはじめ、利用者の方や高校生並びにwebアンケートなど、幅広く実施した結果、ルートの拡大など現行の交通体系の改編や新たな移動ニーズが求め

られたことから、地域の特性や課題を様々な視点で整理・分析し、この度「地域公共交通計画（骨子案）」を取りまとめました。

今後は、この骨子案をもとに、持続可能な運行体系を構築できるよう、交通事業者等で構成する地域公共交通会議で協議を重ね、令和4年3月の策定に向け作業を進めてまいります。

（3）本市ではじめての「観光・交流の拠点」を目指す、（仮称）末廣農場整備事業について

11月21日に起工式が滞りなく執り行われ、いよいよ着工を迎えます。

議員の皆様をはじめ、関係者の皆様、そして、地域住民の皆様の御理解・御協力に改めて感謝申し上げますとともに、市民の皆様の交流拠点として、また、地域が一体となり来訪者をもてなす観光拠点として、目指すべき本施設の実現に向け、しっかりと取り組んでまいります。

本施設は、去る、11月11日に庁議により、愛称を「末廣農場^{すえひろのうじょう}」とすることに決定しました。

「末廣農場」は、1912年、岩崎久彌氏により、当時の富里村に設置され、千葉県における近代農業発祥の地とされましたが、後に財閥解体や一部の土地を千葉県に譲与され、更には新東京国際空港建設の代替地として、現在に至っております。

この誇り高き農場を、「賑わい拠点」とする新たな形で蘇らせ、「末

廣農場」を後世につないでまいります。

現在は、実施設計が完了し、10月28日付けで千葉県に対し開発行為の許可申請を提出しております。

今後は、許可を受け次第、速やかに施設整備に着工し、令和4年3月の完成を目指すとともに、「末廣農場」を市内外に広く周知し、オープンに向け認知度の向上を図ってまいります。

今後の施設の管理運営については、これまで指定管理事業者と施設を有効に活用するための協議を進めております。

施設機能として、富里の食が味わえる「飲食施設」や末廣農場の紹介と観光情報を提供する「ガイドンス・休憩施設」、また、富里産品や岩崎家由来の特産品などを販売する「物販施設」の、大きく3分類に機能を取り揃えた施設に整理し、ゾーニングを行っております。

今後は、更に詳細を明らかにするとともに、施設のオープンに向けたPR方法など、具現化に向けて協議を加速してまいります。

(4)「観光・交流拠点施設(末廣農場)」のオープンに先立ち、市内小学校児童が記者となり、建設過程や魅力を発信する「スクープ!子ども記者」について

本事業は、「末廣農場」について、子ども記者の目線から事業の進捗状況をスクープし、市広報紙と合わせ、「子ども広報紙」を発行す

ることで、児童が成果を挙げる喜びを実感し、ふるさと富里への愛着心を深めてまいります。

また、市民の皆様には施設の概要や末廣農場の魅力など、子どもの視点から見た「子ども広報紙」を御覧いただくことで、「末廣農場」に対する魅力と親しみの相乗効果を醸成させてまいります。

(5) 官民連携事業である、「合同会社 とみさとエナジー」の公共施設の電気料金削減に向けた取組について

現在、県内初の取組の成果として、年間を通じ、還元額としては約800万円を見込む進捗が図られております。

本取組の大きな特徴である、電力供給により生み出した利益を、市民生活に直結し、効果性の高い事業に還元していくことから、事業選定においては、市民アンケートでも多く求められている、身近に利用する生活道路、特に団地内道路を重点に、道路のモニタリングと修繕を一体的に行う富里独自のパッケージの開発に取りかかっております。今後は、事業の開始を来年1月に予定しておりますが、少しでも生活道路の改善に還元できるよう、老朽化の著しい団地から順次着手してまいります。

(6) 歳入改革の一環である、公有財産の有効活用について

昭和56年4月に開設された、「旧保健センター」は、施設利用者の増加により、平成27年に新保健センターが開設されて以降は、有

効活用の検討が求められていたことから、

「旧保健センタープロジェクト」を発足させ、市の課題解決に向けた施設の有効活用をすべきと判断し、特に待機児童解消に向けた、官民連携による「保育施設を基軸とした福祉施設の誘致」とすることとしました。

そこで、保育事業の分野において、民間事業者のノウハウを反映させ、新たな施設として再利用するため、公募型プロポーザル方式により活用事業者の募集を行った結果、11月19日に「株式会社エフ・シー・エヌ」と賃貸借契約を締結し、小規模保育施設として活用することとなりました。

今後は、事業者において、内装工事を着工し、市による事業認可後、令和4年4月の開園を目指し進めてまいります。

(7) 本年度当初から開始した、SDGsの目標達成に向けた、若者世代で結成する、「若者プロジェクトチームによるサステイナブルコミュニティ」について

中学生3名、高校生10名、大学生3名の計16名の応募者を迎え、これまで12回の活動を実施いたしました。

活動は、地域の代表者や市民活動団体などへの聞き取りによる地域課題の把握に始まり、講師を迎えての「SDGs学習会」や現地視察などを実施し、地域の課題として、コミュニティの希薄化による「貧困と教育」、道路の狭隘や歩道の整備といった「道路環境の整備」、不法投棄やポイ捨

てなど「環境美化とボランティア活動」が導き出されました。

これらの課題の解決策について、若者プロジェクトチームが発案した3つの事業が企画され、現在、地域や学校の協力の下、事業化に向けた準備を進めているところです。

今後は、12月4日に企画事業を実施し、令和4年2月の活動報告会の開催により、実現化に至った事業を皆様へお示しする予定であります。

(8) 平成29年3月で閉校となった旧洗心小学校の活用について

旧洗心小学校は、地域コミュニティや地域活動の拠点であり、閉校後も地域に貢献できる施設を念頭に、庁内組織として「旧洗心小学校跡地利活用検討委員会」を設置し検討を進めており、特に利活用を図る上で、小学校開校時から、先送りとなっていた課題の解決に努めてまいりました。

現在は、社会福祉法人を含め民間事業者から利活用への前向きなご意見を頂いている一方で、施設の老朽化による改修の必要性や、体育館においては、災害時の避難所及び市民団体による活動拠点のほか、選挙時の投票所などの利用実態を踏まえながら、新たな課題の整理を行っております。

旧洗心小学校跡地の利活用は、閉校時から地域は基より、多くの市民からも望まれておりますので、早い段階での利活用に向けて引き続き取り組んでまいります。

（９）本市の魅力ある図書館の今後の在り方について

平成１５年３月の開館以来、インターネットによる予約や開館時間の延長など、貸出業務の効率化に取り組むとともに、ブックスタート事業や講師を招いた講演会の実施など、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に向けた図書館サービスを展開してまいりました。

一方で、必要とする書籍の電子化など情報化社会の進展により、図書館の利用者は年々減少傾向となっています。

そこで、今後の少子高齢化による人口減少問題やコロナ禍を踏まえた新たな市民ニーズに対応した図書館を運営し、利用者の増進を図る必要があることから、現在、「庁内プロジェクト」を設置しております。

今後は、図書館本来の機能を充実させるとともに、図書館のスペースを十分に活用し、文化・芸術の要素を取り入れた「新たな情報・文化・芸術の発信拠点」として検討を進めてまいります。

（１０）包括連携を図る日本大学芸術学部との取組について

これまで、電車の中吊り広告とした「ニンジン」のポスターや、出荷の最盛期に合わせ成長過程をたどった「富里すいか」のポスターなどにより、市の魅力と知名度の向上を図ってまいりました。

これからの時期は、全国有数の産地である本市のニンジンが旬を迎えることから、さらに一層の市のPRに向け、昨年度発表したポスターから継続性を持たせ、愛らしいデザインで多くの人に「ほっこり」

してもらえよう、日本大学芸術学部との連携により、第3弾となるPRポスターを作成しました。

今後は、県内の商業施設などに掲出し、積極的にPR活動を実施してまいります。

(11) 成田空港周辺地域での空港の更なる機能強化に合わせた地域づくりについて

物流と人流の拠点機能を担う酒々井インターチェンジの空港への直結化は重要であることから、将来的に成田空港敷地内の再編に合わせて東西分断解消を念頭とする道路ネットワークの構築を図ることを目的に、本市と八街市、酒々井町で構成する「酒々井インター周辺活性化協議会」において、

- 県道八日市場佐倉線から空港西側ゲートを開放し、空港東側で整備予定の県道成田松尾線及び（仮称）滑走路横断道路・国道296号付け替え道路への接続による、東西分断の解消

について、11月19日に千葉県知事に対し要望を行いました。

今後は、空港の発展を空港圏にとどまらず、次なる地域に波及し、千葉県の発展につなげるためにも、周辺市町の連携はもとより、千葉県並びに成田国際空港株式会社との協議を進め、空港を支える基盤強化づくりに取り組んでまいります。

（１２）令和４年の成人式について

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、成人式が再三にわたり延期となり、新成人の皆様には御負担と御苦勞をおかけし大変申し訳ない思いでおります。

しかしながら、明日の２７日に「二十歳を祝う会」として、恩師を招き、多くの新成人が参加しやすい、思い出の会を開催する運びに至ったことは、非常に喜ばしいことであります。

現在、感染者数は減少していますが、今後も、基本的な感染対策を継続するとともに、ワクチンの３回目接種に向けた、円滑な接種体制を整え、新成人の輝かしい門出をお祝いする機会を提供できるよう、令和４年１月９日の開催を目指し進めてまいります。